

私は看護学科への着任を契機に、急性期看護から慢性期看護に転向しました。慢性期看護の知識を体系化していくために附属病院の糖尿病外来で実践経験を積みましたが、そこで得た知見を授業や研究に仕立てていくのに大変苦労しました。大学教員としての職責である教育、研究、地域貢献のどれも中途半端な自分に大変悩んでいたように思います。振り返れば、その時の経験が私のその後の看護教員の道を切り拓いてくれ、糖尿病看護ネットワーク(Qの会)の設立、慢性疾患専門看護師や認定看護師の育成、平成26年の日本糖尿病教育・看護学会学術集会開催など、活動の幅を拡大することにつながっていたことに思い当たります。とても重要な看護教員としての転機になっていたと思います、感謝です。

最後に、看護の大学教育化への移行から30年、看護学科はこれまで高度な看護の実践家、研究者を多く輩出してきました。臨床の現場ではより高い確かな実践力を持つ看護師が育っています。しかし、臨床現場の看護実践の質の改善にはまだ至っておらず、その背景には実践現場を複雑に、多忙にさせている多様な社会的要因が関与しているように思います。看護界ではいまだに大学教育に対する懐疑的な風潮もあります。臨床現場と教育現場の乖離が起きつつあるのではと心配になります。老婆心ながら、臨床現場と教育現場がお互いの知を認め合い、相互に活用しながら、問題解決にともに取り組んでいただければと思います。創設25年という節目を迎え、継続を力に看護の大学教育の強みを生かし、より一層発展していかれまことを期待しております。(令和2年8月末日)

【寄稿】開設当時のあれこれ：玄関ロビーの絵画の由来と修士課程開設

香川医科大学医学部看護学科初代学科主任(後年の学科長)・元教授
キシ・ケイコ・イマイ Kishi Keiko Imai, DNSc., MSN., BSN

【看護学科在籍：平成9(1997)年4月1日～平成14(2002)年3月31日】

光陰矢のごとし、あっという間に時はすぎ、創設時代に関わる歴史を知る人々も少なくなったということで、何らかのかたちで記録として残しておくことにより、看護学科の文化は維持され、発展していくものと考え、看護学雑誌刊行25周年の原稿依頼を受けましたこと、光栄に思います。

私(図1)が卒業した、フィラデルフィア市のペンシルバニア大学看護学部大学院では、同窓会誌、The Pennsylvania Gezetteに各学部の主なニュースが2ヶ月毎に送信され、看護学部からは、Homecomingの時期に学部の教授、卒業生、夜学生の状況や、助成金、募金の状況が連絡されます。看護学部棟のロビーには歴代の看護学部長の肖像画が展示されています。

さて香川大学医学部看護学科に新築の看護教育研究棟ができ、玄関ロビーのイメージをどう作ろうかということで、看護学科教授会でそれぞれの教授が提案資料を提出し、全員に選ばれたのが、この絵画(図2)、今井ロヂン作「I嬢」の油絵でした。今井ロヂンは私の父で、この作品は二科会員として、第64回二科展、1979年に出品されたものです。(注：今井ロヂン(艦)(1909-1994)、1941年：藤田嗣治に師事、1955年：TIMES誌上に掲載、1970年：二科会会員審査員、1975年：二科会員努力賞・日芸絵画大賞、作品は海外大使館10箇所などに所蔵)

父は藤田嗣治を師とし1941-1949年まで、師が米国に去るまで仕え、最後の一年半は師の練馬小竹町のアトリエで生活を共にした唯一の弟子でした。ロヂンの独創性と創造性が完成したのは、1970年から1980年代で、「I嬢」は彼の最盛期の作品の一つで、彼の哲学、「美は万物にまさる」として、「永遠の命、躍動する静、優雅、愛情」を表現しています。ロヂンの画名は祖父



図1 キシ・ケイコ・イマイ
佐久大学・元香川
大学教授
2013年9月19日～
23日小諸高原美術館
での水彩画展



図2 看護学科棟1階
ロビーの「I嬢」
(1979年)今井ロ
ヂン作(寄贈(財)
誠恵会)

が命名しました。海軍技師でイタリー、トリノで潜水艦のエンジンの研究のため1917年から二年間留学し、日本で、最初の潜水艦のプロトタイプを制作したことで、画家を目指す息子に広い海を操る人と名付けました。当用漢字で「艦」という漢字が使われなくなり、ローマ字になりました。

次に、私が現在思うことを少し書きます。香川大学医学部看護学科の修士課程は私が最も力を入れた仕事の一つで、これはペンシルバニア大学看護学部、修士課程のモデル・コアカリキュラムをもとに作成されました。このプログラムは令和元(2019)年文部科学省が提出している、実に洗練されたモデル・コアカリキュラムのプロトタイプと考えても良いと思います。私が学科長(当時は学科主任と称した)として在籍した時代には国内で修士課程が十数校でしたが、現在令和2(2020)年には175校、また博士課程が90以上と増加し、変化の激しい新しい時代の要求に対応できる教育体制、人材育成が整い、国際レベルの質の高い教育を外国に留学しなくても国内で受けることが可能になりました。これからの看護大学、大学院の卒業生が幅広く看護実践に貢献し、看護知識体系の充実のための研究を進め、それぞれ独創的な分野を開拓し、ヘルスケアのリーダーシップをとっていけば、2020年のコロナウイルス禍を生き抜くことができるのではと考えます。香川大学医学部看護学科の繁栄を祈ります。

【寄稿】香川大学看護学科の25周年記念に懐かしい思い出を寄せて

香川大学名誉教授 内藤 直子(岐阜保健大学教授)

第3代看護学科長・初代医学部副学部長

【看護学科在籍：平成12(2000)年～平成24(2012)年3月】

看護学科25周年を迎えられましたこと、誠におめでとう存じます。

香川大学の皆様、ご無沙汰していますがお元気でございますか。COVID-19で大変なご苦労と拝察します。

思い出話のご依頼をお受けしまして、少し筆を進めさせていただきます。思えば、平成12年4月1日(2000)に、奈良県立医科大学看護短期大学部から新天地の香川に参りましたのは、昨日のようで、あっという間の歳月でした。香川大学で、私の歩んだ看護学の教育と研究、日々の過ごし方に強い影響を与えたのは、文部省在外研究員として平成13年4月から短期留学で、カナダのカルガリ大学で国際的に家族看護学を提唱し世界に広められたL.M.Wright博士の研究姿勢でした。冬はキャンパスでオーロラが見えたり、ヒヨウや雪に見舞われたり、ライラックスや桜が満開の頃はドミトリーにかわいいリスが訪れ癒されました。

思い出は走馬灯のようで、平成15年10月には、旧香川医科大学と香川大学が統合し、平成16年4月には法人化となり、この法人化により、予算や研究資金獲得、産学協同研究や、大学連合プロジェクトや、教育や研究の結果説明が全ての分野で求められました。看護教育4年間で、どこまで看護実践応用力が育っているかの説明など、苦戦苦闘の日々のなか、国の経費削減で教員不補充の波が押しよせ、教員数が徐々に削減されました。

在籍中には多くの国際交流を体験しました。平成15年9月には、マックマスター大学看護学部バサンシ・マジェンダー博士を招聘し、看護学科国際交流特別セミナーを開催しました。タイのプラバ大学看護学部長と出会い、平成16～18年度文科省科研補助金基盤研究(C)で共同研究ができました。また、平成18年に香川大学医学部重点化研究補助金とカルガリ大学カレン教授とともにカルガリ大学看護学部長研究奨励金が得られ、7月にカレン教授が香川大学看護学科に来訪され、学生のカルガリ大学短期留学に道を拓きました。タイのチェン・マイ大学や河北医科大学などで看護留学生の御世話などをさせていただいたことは印象深い思い出です。「讃岐の丘から世界へ発進」を合い言葉に、看護学科の国際交流委員長として教員や学生のなかまと共に活動ができましたことは、現徳田雅明副学長のご支援の賜物でありました。その情熱のおかげで平成24年3月には、全学学術交流協定の一部としてタイのチェン・マイ大学看護学部と香川大学医学部看護学科



図3 チェン・マイ大学にて(左から清水教授, Wipada 学部長, 内藤教授)